

実質賃金低下に歯止めをかけ、好転させるたたかいが必要!



十月四日、第二回中央執行委員会が開催され、定期大会での代議員発言を受けての取り組みについて、秋年末闘争の具体的たたかい方、一八春闘準備等について等議論した。

〔代議員発言関係〕
大会で出された意見を課題別に整理し、春闘、組合運動のあり方、組合費、非正規労働者の組織化、働き方改革、検数、港湾年金、労職対、労働、反戦平和、港湾、海コン・トラック・バス、政党、全国港湾への要望について各々



東京都大田区蒲田 5の10の2
全日本港湾労働組合機関紙
(毎月1日発行)
一部20円 (組合員の購読料は組合費の中に含む)
発行責任者 真島勝重



七尾支部森委員長、市議に当選!
十月二十二日、七尾市議会議員選挙がおこなわれ、開票の結果、日本海地方七尾支部の森けんいち候補(全港湾七尾支部委員長)が一、四一五票を獲得し一位で七尾市議会議員に見事当選されました。

十月二十二日、台風直撃の中で第四八回衆議院選挙がおこなわれた。そもそも、この総選挙は、安倍総理が「森友、加計疑惑」の追及を逃れるために行われたもので、国民不在、総理自身の権力維持のための選挙であり、政治の私物化そのものだった。しかし結果は、自民党の圧勝という形となった。与党である自民党・公明党に加え、希望の党、維新などの憲法改悪を主張する「改憲勢力」は衆議院議員四六五名の八割を超えたことにより、平和憲法の改悪と戦争への危険が拡大したといえる。もちろん、これまで以上に、安倍一強の政治手法により、大企業優遇、増税、社会保障と労働者保護規定の改

悪など、国民生活へのしわ寄せは大きくなるを得ない。投票の結果は自民党と公明党が若干議席を減らしたが、衆議院定数の三分の二を占めた。また、維新や希望の党などの改憲勢力が一定の議席数を確保した。

一方、一六人の議員で新しくできた立憲民主党は五五議席を獲得、社民党も議席を維持したが共産党は一二議席に後退した。

野党共闘がすべて

国民的諸課題では「働き方改革関連法案」学習会などの教育活動や大衆行動を取り組むとともに、関係団体と連携し、地域で取り組まれる諸行動に積極的に参加することとした。

〔一八春闘準備について〕
選挙関連では安倍政権打倒をめぐり、戦争法制廃止・憲法改悪反対・脱原発を軸とした革新勢力の拡大に取り組むこととした。

現在、全港湾平均賃金は交差協力が提示している「ニママ

調査の結果等をまとめた「一八春闘方針(案)」を討議するにあたって」を配布、次回中央執行委員会までに議論を深めていくとした。二〇一七年

賃金よりも約二万円低くなっており、実質賃金低下に歯止めをかけ、好転させるたたかいが必要ではないのかとの問題提起を受けた。

(片柳悦正)

り、急ぎよ、立憲民主党が立ち上げられた。急造の政党がどれだけやれるのかという声もあったが、「憲法改悪反対、戦争法制反対、脱原発」というわかりやすい方針が代や政党再編の中で、政策があいまいになってきたために、選挙の取り組みは難しくなったが、今回の選挙では逆に、選挙の取り組みは難しくなっていない。

安倍政権は決して盤石ではない。森・加計問題などのスキャンダル、アベノミクスの失敗が経済危機としていつ表面化するのか、また、おとむだちの「トランプ大統領」総選挙の結果、安倍政権が

いつ、政権が倒れるかわからない状況であり、わたしたちは政治闘争、選挙を取り組む体制を強化し、働く者のための政権を作ることを目指していくことが必要である。たたかいはこれから!

主・張

総選挙は安倍政権が支持されたわけではない たたかいはこれから!

中央執行委員長 松本耕二

選挙関連では安倍政権打倒をめぐり、戦争法制廃止・憲法改悪反対・脱原発を軸とした革新勢力の拡大に取り組むこととした。

交通労協結成30年、改革・連携・協働 持続可能な交通運輸産業の構築をめざす



交通労協は、十月十一日、リーガロイヤルホテル東京において、第三三回定期総会を開催した。議長団は内野代議員(航空連合)、千葉代議員(サービス連合)が務め、交通労協住野議長の開会あいさつを受けた後、連合の神津会長、ITFのステイブ・コットン書記長、社民党の又市幹事長、交通労協政策推進議員懇談会の福山議員、厚労省の本多総合政策評価審議官、国交省の金子総合政策局交通計画課長より来賓あいさつを受けた。

その中で、住野議長は「今日、交通労協三〇周年を迎えることができた。社会的地位の向上と、総合交通体系の確立に向けて大結集をして交通労協は結成した。しかし、私たちの労働環境は結成当時とくらべて良くなっていない、むしろ悪くなっている。従来以上にネットワークを築いているのか大きな課題となっている。これからの一〇年間に、交通産業、労働環境の改善をはかり、魅力ある産業とするための邁進していく」と述べ、ITFのステイブ・コットン書記長は「ITFが組織している実人員は二〇〇万人を超えていると思っ

た。役員改選では、住野議長(私鉄総連)が再任され、全港選出の松本副議長、真島幹事、松谷事務局次長もそれぞれ再任された。

また、今年は交通労協が結成されてから三〇周年目の記念の年にあたることから、総会終了後、三〇周年記念レセプションが盛大に開催され華やかな一時を過ごした。

(片柳悦正)

交通労協活動方針からの抜粋

二〇一八春季生活闘争の取り組みについて

二〇一八春季生活闘争では、引き続き、「所定内労働で生計を営むことが可能となる賃金水準を確保するための闘い」として展開することとします。「賃金・一時金等実態調査」でも明らかになったように、わが国の交通運輸産業労働者は、一部を除いて

「ミニマム賃金水準」に到達していないことを踏まえ、月例所定内賃金の向上にこだわりの取り組みを継続していくとします。また、賃上げの闘いの両輪として長時間労働を是正するための働き方改革の取り組みも強化していかねばなりません。今春闘においても、多くの単組が、所定労働時間の短縮、時間外労働の削減、時間外割増率の引



ITFのステイブ・コットン書記長

働の縮減、時間外割増率の引き上げ、短時間勤務制度の導入などの成果を勝ちとっています。二〇一八春季生活闘争においても、引き続き、働き方を含めた労働条件全般における改善の取り組みを展開し、年齢・性別にかかわらず、すべての労働者が安心して働けることができる産業をめざしていくこととします。

原子力空母配備抗議！ 危ない物にはノーの声を

特定最低賃金の確立について 特定最低賃金の設定は、公正競争の確保や輸送秩序の確立に有効です。これにより、コストに見合った適正運賃の収受が可能となり、労働条件の維持・改善及び労働力の質的向上や、交通運輸産業全体の社会的地位の向上につながります。労働組合の役割として、この法制度に大きな関わりを持つのが「企業内最低賃

金」の協定化です。毎春闘で要求し、各組合で協定化する企業内の最低賃金や年齢別の最低賃金は、従業員への賃金改善のため、企業内最低賃金最低保証額を労使間で決定し、協定の締結拡大と水準の引き上げ・適用対象者の拡大を求めていくこととします。

辺野古新基地建設を許さない一〇・四集会

十月四日、日比谷野外音楽堂で「辺野古新基地建設を許さない一〇・四集会」が開催されました。主催(基地の県内移設に反対する県民会議・止めよう！辺野古埋立て国会包囲実行委員会・戦争をさせない・九条を守ろう！総がかり実行委員会)の呼びかけにより、全国各地から多くの市民団体、労働団体など、二〇〇〇名の仲間が集まりました。

主催者を代表して国会包囲実行委員会の平野氏の挨拶では、安倍首相による衆議院の開催を厳しく非難し、「安倍

政府の打倒、来る選挙では沖縄の基地問題が選挙の争点になるように全国で声を上げ、基地建設を阻止しよう、世論喚起をしよう！」集会参加者へ訴えました。平和フォーラム藤本共同代表は「辺野古新基地は戦争するためのもので、沖縄・沖縄県民を守るものじゃない。絶対に基地建設を許してはならない。」と連帯の決意を表明しました。

現地辺野古で連日闘いつづけている沖縄平和運動センター一大城事務局長は、「毎日の阻止行動、全国からの応援に

よって辺野古新基地建設は計画より大幅に遅れている。また、オスプレイ墜落事故や故障等による民間空港への緊急着陸など、県民にとって、空港を利用する人にとって何一つ良い事は無い。翁長知事が岩礁破壊許可に関連して訴訟を起こした。国の正義・法治国家を問う意味でも、辺野古現地行動を進めながら、オー

るもので、賃金の底支えと最低生活保障の性格を有しています。すべての労働者の処遇改善のため、企業内最低賃金協定の締結拡大と水準の引き上げ・適用対象者の拡大を求めていくこととします。

が強くいつ戦争が勃発してもおかしくない。国内には無数の原子力発電所もあり福島原発事故の教訓をいかさなければなりません。なのに政府は原発稼働を押し進めています。アンダーコントロールなんて言うのはあてにならない！

相次ぐ米軍機の事故も容認できません。安心して暮らせるように反基地・反原発、危ない物にはノーの声をあげて行こうと思います。集会后はデモ行進が行われました。

(関東地方横浜支部 青年部副部長 寶納雅行)

長知事も提訴した違法な状態による基地建設の強行。違法に行われる土砂搬出入作業所謂港湾作業は絶対に許されない。実力で阻止する。」と、発言され、会場は一気に盛り上がりました。

辺野古新基地建設阻止のため、いか、そもそも何故、国土広い本土ではなく、県土狭い沖縄県に在日米軍基地・施設が集中しているのか?その歴史を重んじ、「立憲主義・民主主義・平和主義」を今一度考える時、沖縄の基地問題は、「沖縄の」ではなく、「日本の在日米軍問題」として国民に広く等しく問いかけなければならない。(諸見力)

第二回日本貨物検査協会本部 東京抗議宣伝行動

第二回目的日本検査協会(以下「日検」という)本部へ「指定事業体」の組合員雇用問題で、日検が団体交渉拒否を行っていることに対して、抗議宣伝行動を九月二十一日早朝から夕方までと二十二日午前中に行いました。前日の二十日夜間に大阪から、宣伝カー三台に河野書記長以下九名で出発し、早朝東京支部に到着し、心のこもった朝食を頂き抗議宣伝の事前準備を行い、午前九時前築地の日検本部前に到着しました。

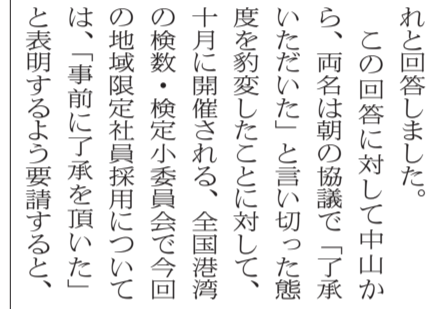


しかし、本部周辺には病院・ホテル・学校がありますので、通常のマイク音量の宣伝ができませんので、多数ののぼり旗と横断幕をセットし、名古屋支部の五名と東京支部から鈴木委員以下一〇名の仲間の応援を頂き、二台の宣伝カーには東京支部組合員が同乗し、東京港周辺への抗議宣伝行動を行い、他の仲間と共に本部前でビラ配布と座り込み抗議宣伝を夕方まで行いました。



早朝に中央本部から真島書記長と、諸見書記次長が到着した後、中山と名古屋支部杉本委員長と西協書記長の六名が日検へ「抗議並びに団体交渉の申し入れ」と要請協議のため、本部に入館し、入り口で待ち構えていた日検の木下労務部長と川北労務次長が応対しました。

木下部長は、突然、「前の宣伝カーは何ですか、今日は抗議宣伝を行わない」と事前連絡を組合から受けていると言いましたが、中山から「周囲に病院等があるので、通常のマイク宣伝を行うと迷惑がかかるので、やらない」と秩序ある宣伝であると反論し、抗議文を提出し「誠意ある団体交渉をするよう」申し入れました。これに対して、大阪府労働委員会が現在「和解斡旋」を日検も受け入れ、話し合いに応じているので、労働委員会と違う回答ができないと不誠実態度をとりました。



また、西協書記長から日検は、地域限定社員採用にあたり、就業規則を改定したが当該名古屋支部に一切説明をしていないことは不当差別であると抗議を行うと、会社も一定の不備を認め謝罪をしました。しかし、日検側は、「地域限定社員」について、多数派労組と合意し就業規則改定し、それに基づき採用したと回答しました。

全国港湾の「指定事業体問題の運動方針」とかけ離れた条件であり、全港湾はあくまで全国港湾の方針に基づき指定事業体組合員の日検への直接雇用を求めると要請しました。

最後に、早急に誠意ある団体交渉に応じるよう再度要請し、交渉は終了しました。要請後中山から、全国港湾に連絡を入れると、今回の「地域限定社員」募集について、事前了承していないし、二年前の七人の採用についても問題ありきで終わっていると返事されたので、午後三時頃再度中山と名古屋支部杉本委員長、西協書記長で、木下労務部長に抗議に赴き、朝の回答について、全国港湾の返事を説明すると、いとも簡単に木下部長は、一度調査させてくれと回答しました。

この回答に対して中山から、両名は朝の協議で「了承いただいた」と言い切った態度を豹変したことに對して、十月に開催される、全国港湾の検数・検定小委員会での今回地域限定社員採用については、「事前に了承を頂いた」と表明するよう要請すると、

もし間違っていたら、迷惑が掛かると回答する態度を示したので、朝の両名のいい加減な回答に対して抗議を行いました。この問題は、全国港湾で白黒をはっきりさせるため、

に、同小委員会に出席する西協書記長から、引続き日検の両名に対して追求することを確認しました。

また、宣伝カー二台は、東京港周辺宣伝に東京支部の仲間に同乗していただき、港湾エリアで、日検の不当労働行為や、港湾運送事業違反行為を旺盛に宣伝しました。

翌日は、九時から前日に続き、午前で切上げ帰途に就きました。今後も、全国

に、同小委員会に出席する西協書記長から、引続き日検の両名に対して追求することを確認しました。

また、宣伝カー二台は、東京港周辺宣伝に東京支部の仲間に同乗していただき、港湾エリアで、日検の不当労働行為や、港湾運送事業違反行為を旺盛に宣伝しました。

翌日は、九時から前日に続き、午前で切上げ帰途に就きました。今後も、全国

不信感を募らせている上、八月の県知事選においては再稼働反対四〇%、賛成二〇%と県民も再稼働反対の意見が上回っています。それでも運転再開を諦めようとする日本原電の姿勢は理解できません。そんな中、自民党の強力な支援を受け当選した大井川知事は選挙戦で再稼働の考えを明らかにせず、動向に注意が必要です。

脱原発は高いハードルが多く、推進論者は経済、雇用、環境などの観点から攻めてきます。これは避けては通れない課題ですが、さらに根幹にある「核と人は共存できない」という教訓をJCO臨界事故は、尊い命と引き換えに残しました。地元民、人間として、この事故は絶対に風化させてはいけません。この集会は全港湾以外で若い人の参加が少ないことは気になります。

(東北地方ひたち支部 古内厚志)

最後に、早急に誠意ある団体交渉に応じるよう再度要請し、交渉は終了しました。要請後中山から、全国港湾に連絡を入れると、今回の「地域限定社員」募集について、事前了承していないし、二年前の七人の採用についても問題ありきで終わっていると返事されたので、午後三時頃再度中山と名古屋支部杉本委員長、西協書記長で、木下労務部長に抗議に赴き、朝の回答について、全国港湾の返事を説明すると、いとも簡単に木下部長は、一度調査させてくれと回答しました。

この回答に対して中山から、両名は朝の協議で「了承いただいた」と言い切った態度を豹変したことに對して、十月に開催される、全国港湾の検数・検定小委員会での今回地域限定社員採用については、「事前に了承を頂いた」と表明するよう要請すると、

もし間違っていたら、迷惑が掛かると回答する態度を示したので、朝の両名のいい加減な回答に対して抗議を行いました。この問題は、全国港湾で白黒をはっきりさせるため、

に、同小委員会に出席する西協書記長から、引続き日検の両名に対して追求することを確認しました。

また、宣伝カー二台は、東京港周辺宣伝に東京支部の仲間に同乗していただき、港湾エリアで、日検の不当労働行為や、港湾運送事業違反行為を旺盛に宣伝しました。

翌日は、九時から前日に続き、午前で切上げ帰途に就きました。今後も、全国

不信感を募らせている上、八月の県知事選においては再稼働反対四〇%、賛成二〇%と県民も再稼働反対の意見が上回っています。それでも運転再開を諦めようとする日本原電の姿勢は理解できません。そんな中、自民党の強力な支援を受け当選した大井川知事は選挙戦で再稼働の考えを明らかにせず、動向に注意が必要です。

脱原発は高いハードルが多く、推進論者は経済、雇用、環境などの観点から攻めてきます。これは避けては通れない課題ですが、さらに根幹にある「核と人は共存できない」という教訓をJCO臨界事故は、尊い命と引き換えに残しました。地元民、人間として、この事故は絶対に風化させてはいけません。この集会は全港湾以外で若い人の参加が少ないことは気になります。

(東北地方ひたち支部 古内厚志)

今年度のフクシマ連帯キャラバン茨城自治体要請の際には、どの市町村も日本原電に

今年度のフクシマ連帯キャラバン茨城自治体要請の際には、どの市町村も日本原電に

今年度のフクシマ連帯キャラバン茨城自治体要請の際には、どの市町村も日本原電に

今年度のフクシマ連帯キャラバン茨城自治体要請の際には、どの市町村も日本原電に

今年度のフクシマ連帯キャラバン茨城自治体要請の際には、どの市町村も日本原電に

今年度のフクシマ連帯キャラバン茨城自治体要請の際には、どの市町村も日本原電に

今年度のフクシマ連帯キャラバン茨城自治体要請の際には、どの市町村も日本原電に

今年度のフクシマ連帯キャラバン茨城自治体要請の際には、どの市町村も日本原電に

今年度のフクシマ連帯キャラバン茨城自治体要請の際には、どの市町村も日本原電に

中山寛治郎

JCO臨界事故一八周年 事故は絶対に風化させてはいけない



今年度のフクシマ連帯キャラバン茨城自治体要請の際には、どの市町村も日本原電に

告知板

- 長 河野照宣、書記次長 裕 川伸一
- 富雄、久保田稔、執行委員 関西地方建設支部
- 部谷英治、井上友寛、中司祐 九月三十日
- 二、道下拓也、坪井雄志、廣 執行委員長 浦田國男、副執
- 渡信次、山本英生、竹内政 行委員長 大野善充、書記長
- 行、鈴木大介、入江友規、中 岸畑貴喜、書記次長 上井康
- 川原博、合田雅史、矢野佑 弘、執行委員 宇高良樹、落
- 樹、池口光洋、中嶋淳充、菅 合貴志、村田真規、國元拓郎、
- 樹、池口光洋、中嶋淳充、菅 山下敏明、松野大樹、大河原
- 樹、池口光洋、中嶋淳充、菅 徹、栗飯原義胤、会計監査委
- 樹、池口光洋、中嶋淳充、菅 員 石埜隆則、橋高由香
- 樹、池口光洋、中嶋淳充、菅 以上

地方版

沖縄 沖縄平和行進で平和を誓う



の二コースに分かれて行進をしました。初日は、炎天下のなか県庁前の県民広場をスタートし、ひめゆりの塔までのゴールを目指し、戦争はしない、静かな生活を守るため、辺野古への新基地建設反対などの思いを胸に力強いシュプレヒコールを掲げ行進しました。二日は雷雨の中、糸満市の平和記念公園を出発し、幾度となく雷鳴が響く最中、大雨にもひるむことなく行進団はゴールの南風原町役場のゴールを目指し行進しました。

沖縄地本青年女性部 レクリエーション

沖縄地方青年女性部は、毎年行っているスポーツレクリエーションを二〇一七年二月十二日(日)に開催しました。月に一度の幹事会で話し合い、ボウリング大会に決定しました。各分会の懇親を深めるために、参加者を募ったところ、家族で参加してくれた方、個人で参加した方もいました。今年、台風の影響でタイミンクが悪く船の入港が多かったため、予定していた人数より少ない、三九名(大人三名・子供八名)の参加でした。予定の八〇名より約半分少なかったため、終了時間も二時間ぐら早く終わってしま

いますが、我々としてはこの非常な現状を打破するために今後も新基地建設反対・県内

移設反対を訴え、国民・県民の平和な生活を守っていきけるよう反戦・平和運動を続けていかなければならないと思います。

北海道 一七秋年末闘争 中央オルグ

九月二十一日十七時より、釧路港湾福利厚生会館において一七秋年末闘争中央オルグが開催されました。参加者は北海道地本執行部から五名(副委員長二名、書記長一名、執行部二名)、釧路支部・各分会より三五名、中央本部より大野副委員長に率いられてボウリング大会を楽しんでいました。沖縄地本で昼食懇親会を開く予定でしたが、準備が間に合わなかったため、会場にて表彰式をして解散しました。来年からは、船の入港などの情報も聞きながら計画し、大勢の組合員と懇親を深めたいと思います。

九月二十一日十七時より、釧路港湾福利厚生会館において一七秋年末闘争中央オルグが開催されました。参加者は北海道地本執行部から五名(副委員長二名、書記長一名、執行部二名)、釧路支部・各分会より三五名、中央本部より大野副委員長に率いられてボウリング大会を楽しんでいました。沖縄地本で昼食懇親会を開く予定でしたが、準備が間に合わなかったため、会場にて表彰式をして解散しました。来年からは、船の入港などの情報も聞きながら計画し、大勢の組合員と懇親を深めたいと思います。

冒頭、川村委員長の挨拶から始まり、続いて、大野副委員長のオルグへと移りました。釧路支部の参加者は若年層が多かったため、全港湾の歴史に触れながら、秋年末闘争のたたかい方を教授いただき、非常に有意義なオルグとなりました。

先日、九月二日の土曜日に服部緑地にて関西地本青年部の交流会を開きました。この二年程は学習会の後に交流会をしてきましたが、今回は交流会をメインにBBQを開催しました。交流会だけというのが久しぶりで、人が集まって場がしらけることなく進められるか気がかりでした。無事に参加者一一名集まり、服部緑地のBBQ会場はBBQセットをレンタルできる事もありバタバタすることもなくスタートできました。

になりました。今後も、今オルグで学んだことを活かし、ま

(北海道地方書記次長 伊藤勇武)

日本海 新潟支部 新規組合加入説明会

去る、九月三十日(土)十三時三十分より新潟支部主催の新規組合加入説明会を開催しました。新潟支部では、毎年この時期に合わせて支部三役、各分会委員長参加のもと加入説明会を行っています。

今年四月を中心に新潟支部所属の各社に入社した、一一名を組合事務所へ招き、新潟支部、鈴木委員長より挨拶を頂き、労働組合の意義と役割、全港湾とはどういう組織なのかを学習したのちに、原発の取組みや政治闘争、地域組織との連携など幅広い運動を行っている現状を報告し

ました。併せて総合生協、労金の取組みを双方の職員から説明を受けました。最後に重要となる財政や組合費の徴収方法などの説明を行い、各々内容を理解し加入する事を進めました。

第三回伏木支部 労供事業部総会

第三回伏木支部労供事業部総会を二〇一七年九月八日に第一イン新湊で開催しました。総会では、労働者供給組合員と来賓として供給先の企業五社にも出席していただき盛大に開催しました。その中

で、労供事業実績報告や労供事業収支決算報告を行い、承認されました。伏木支部は、労働者供給事業を本格的に運用し、三年が経過しました。二〇一六年度は三月末日の一年で一四名が

少し前になりますが、本土復帰四五周年になるこの沖縄の地で今年も第四〇回「五・一五平和行進」が行われました。今年「中部・基地コース」と「南部・戦跡コース」

はゴールの南風原町役場のゴールを目指し行進しました。今年、台風の影響でタイミンクが悪く船の入港が多かったため、予定していた人数より少ない、三九名(大人三名・子供八名)の参加でした。予定の八〇名より約半分少なかったため、終了時間も二時間ぐら早く終わってしま



第三回伏木支部労供事業部総会を二〇一七年九月八日に第一イン新湊で開催しました。総会では、労働者供給組合員と来賓として供給先の企業五社にも出席していただき盛大に開催しました。その中

で、労供事業実績報告や労供事業収支決算報告を行い、承認されました。伏木支部は、労働者供給事業を本格的に運用し、三年が経過しました。二〇一六年度は三月末日の一年で一四名が

に、場はしらけることなく話はずははずんでいた。話のほとんどはやはり仕事の事や悩みでした。青年部層だけだったからか話は途切れることなく最後まで続きました。それは初後まで続きました。それは初めて見る人もいたし見知った人もいたけど、これだけ話ができるって言うのは力強さを感じました。しかも大人が集まっているせいか、皆何かしようにと、あまり椅子に座らずほとんどが立っていて、焼き当番も順次交代してスムーズにこなしました。これもある意味団結力なのだろうと思います。自分にも色々と思

(伏木支部書記長 城光 茂)